

裏路地探険

のどかな農村風景が広がる県道70号沿い。清らかな水をたたえる建屋川と相まって、時間が止まったような気持ちにさせてくれる。この流れに沿って車を走らせると、いくつかの集落が点在する。養父市建屋は昭和30年代まで建屋村として、これら集落の中心地であった。

現在の診療所が建つ場所はかつての役場跡地。今でも小学校、郵便局、駐在所、農協などがあり、マイカーがなかった時代は商店街が形成されていた。

「ここは旅館だった家です。こちらには魚屋、あそこは造り酒屋、鍛冶屋さん……。私の子どもの頃は約半数の家が商売を営んでいましたね」とは、案内役の藤原弘さん。

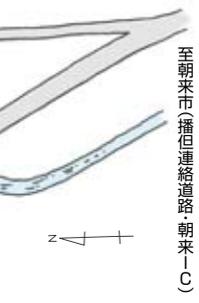
通りにはレトロな看板やうだつが上がった家々が見られ、藤原さんは当時の町を歩いているかのように



阿弥陀寺は約410年前の創建で、本堂は約230年前に再建されたもの。江戸時代後期の高僧・徳本上人の塑像が祀られている。徳本は念仏聖として知られ、各地に「南無阿弥陀仏」と刻んだ名号塔が建立されている。



阿弥陀寺にある徳本行者の塑像。建屋小学校区内には徳本上人の名号塔が10基も建立されている。住民の信仰心の篤さがうかがえる。



至朝来市播但連絡道路朝来IC



建興寺は太田垣氏ゆかりの寺院。太田垣一族との関係が分かる「両松寺妙見堂の棟札」が残されている。また、明治初期には小学校として利用され、傍らには「建屋小学校発祥の地」を記した石碑が佇んでいる。



集落内に数多く残る「名号塔(左・中)」。名号塔は「南無阿弥陀仏」の六字名号を彫った塔のことをいう。他にも地藏や三界万霊塔などの石造物が点在している。道路元標(右)は道路の起終点を示し、大正9年に各市町村の中心地に設置された。

山名四天王・太田垣氏の本拠地として栄えた町

お地藏さんや名号塔などの石造物が数多く残る

中世の農村都市の面影をたどる旅へ出かけよう

お店の職名を教えてください。

中世には但馬守護・山名氏を支えた太田垣氏の本拠地であったと考えられている。集落の西側にある尾根の先端部には、市内でもトップクラスの大規模城郭「建屋ウスキ城」が築かれていた。山城のすそ野には「殿屋敷」「馬場」「ビク二畑」といった地名が残り、規模の大きな城郭都市があつたそう。

そのことを示すかのように、平成15年のバイパス工事に伴う埋蔵文化財調査では、室町時代前半の流水型庭園跡が出土。当時の武家庭園文化の先端を行く庭造りであつたとされ、中世に武士が台頭していく状況を示す貴重な遺跡とされている。「場市」という地名もあり、周辺は市場もあつてかなり栄えていたそう。

集落内にも太田垣氏ゆかりの建

～共に生きる
この街を元気に～

但馬信用金庫



